# フロンティアスクール中間報告書

| 都道府県名 | 新潟県 |
|---|---|

## Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

| 学校名 | 新潟市立鳥屋野中学校 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学　年 | １年 | ２年 | ３年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | ６ | ６ | ７ | ０ | １９ | ３８ |
| 生徒数 | ２３８ | ２３７ | ２４２ | ０ | ７１７ | |

## Ⅱ　研究の概要

### １．研究主題

「確かな学力」と「学ぶ喜び」を保障する授業実践

### ２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

全学年・全教科

学力向上には，日頃の授業改善が不可欠であると考え，全学年・全教科において実施することとした。

※　参考　少人数指導　英語科
少人数指導・習熟度別学習　数学科
課題別学習　国語科　社会科　理科　保健体育科
美術科　技術･家庭科

(2)　年次ごとの計画

| | |
|---|---|
| 平成14年度 | ○テーマ<br>「学力」と「学び」を保障する授業実践<br>○研究の方向<br>次の３つの手立てを取り入れた単元計画のもと授業実践することにより，個に応じた学びができ，学力が向上すると考える。<br>ア　単元導入段階の基礎的事項と基本的事項の理解度チェック<br>イ　基本的事項の定着を図る学習の設定<br>ウ　基本的事項の定着に応じた補充・発展学習の設定<br>※　コース別学習の実施<br>○研究内容<br>ア　導入段階における理解度チェックの診断方法と内容の検討<br>イ　単元の基礎的事項と基本的事項の明確化<br>ウ　単元の発展的な内容の選定と開発<br>エ　補充学習と発展学習におけるコース別学習の設定の検討<br>オ　評価基準の検討と改善<br>カ　小中接続による学力実態の把握と授業改善の検討・協議<br>○研究方法<br>ア　プロジェクトチームによる研究の推進<br>イ　授業研究<br>・　重点教科３教科の全体研修会<br>・　少人数指導の数学科・英語科の授業研修会<br>・　教科内研修会<br>ウ　小中合同研修会の実施<br>エ　実践紹介と課題発掘のための「学力向上シンポジウム」の開催。 |

| | |
|---|---|
| 平成15年度 | ○テーマ<br>「確かな学力」と「学ぶ喜び」を保障する授業実践<br>○研究の方向<br>ア　全職員の日々の授業改善を行っていく。そのために，教師自らが現在の自分の授業について様々な評価を受け，指導力の向上を図っていく。<br>イ　学力向上について保護者や地域の方々と一緒になってその効果的な手立てを考え，取り組んでいく。<br>○　研究内容<br>（1）授業改善を柱に，次の視点から学力の向上に努める。<br>①　教師からの視点<br>ア　少人数指導による基礎・基本の確実な定着と発展的な学びの保障のために，以下について明らかにする。<br>・　数学科における年間を通したセルフコース学習の効果測定とその改善のための具体的方策<br>・　英語科における年間を通した少人数指導の効果測定とその改善のための具体的方策<br>イ　国語，社会，理科，保体における課題別学習の実施とその効果測定，　及びその改善のための具体的方策<br>ウ　音楽，美術，技家における補充的な学習と発展的な学習を取り入れ　た授業の効果測定，及びその改善のための具体的方策<br>エ　効果的な学力補充対策の具体的方策<br>・　定期テスト前の補講<br>・　長期休業中補充学習のためのサマースクール，ウインタースクールの開講<br>②　生徒からの視点<br>ア　集団基準準拠検査（NRT）結果による学力実態の把握と授業改善のための手立ての検討<br>イ　各学期ごとの評定結果に基づく評価基準妥当性の検討<br>ウ　生徒による授業アンケート（理解度，満足度，要望）に基づく授業　改善のための具体的方策<br>エ　目標基準準拠検査（CRT）による学力実態の把握と授業改善のための手立ての検討<br>③　保護者からの視点<br>ア　学力向上フロンティア事業中間発表会（H15.11.8）における全クラス，全教科の授業公開，及び「保護者と授業を語る会」の実施<br>イ　保護者の学校診断アンケートによる授業評価<br>（2）「接続」の視点から，学区内小学校（上所小，女池小）との連携推進に努める。<br>ア　学区内小学校との学力実態分析，評価方法，少人数指導についての検討<br>イ　学区内小学校との２学期制に向けた研修会<br>○　研究方法<br>（1）　習熟度別学習，課題別学習を実施し，その効果測定と改善を行う。<br>①　数学科・・・単元全てにおいて習熟度別学習を実施<br>②　国語，社会，理科，英語，保体・・単元によって課題別学習を実施<br>③　音楽，美術，技術家庭・・補充的な学習と発展的な学習を取り入れた課題解決学習の授業を実践<br>（2）第１期，2期に教科内授業研究会の実施<br>①　第１期を６～７月，第２期を９月～ 10月とし，全教科，全職員が授業研究を行う。<br>②　協議会を設け，外部指導者の方から指導・助言を受ける。<br>③　授業及び協議会への保護者の参観を要請し，さらに，保護者による授業アンケートを実施し，成果，問題点，改善のための方策を明らかにする。<br>（3）学力向上フロンティア事業　中間発表会（H15.11.8)の実施<br>①　全クラス，全教科，全職員の授業公開<br>（会場：新潟市立鳥屋野中学校）<br>②　保護者参加の教科別研究協議会「保護者と授業を語る会」の実施<br>（4）　学力実態結果，各種アンケート結果，分析結果，各教科の授業改善の手立て，評価方法，評価規準，及び研究授業の全てを保護者に公開する。<br>（5）　学区内小学校（上所小，女池小）との合同研修会（H15.8.27,8.28） |

| | |
|---|---|
| | を実施 |

| | |
|---|---|
| 平成16年度 | ○テーマ<br>一人一人の生徒の実態に応じたきめ細かな指導を目指した授業実践<br>○研究の方向<br>学力向上に向けた３年間の取組と成果と課題をまとめ，それらを基に，学力向上に向けた取組を継続的に行っていくための学校システムを確立する。<br>○研究内容<br>（１）授業改善を柱に，次の視点から学力の向上に努める。<br>①　教師からの視点<br>ア　少人数指導による基礎・基本の確実な定着と発展的な学びの保障のために，以下について明らかにする。<br>・　数学科における年間を通したセルフコース学習の効果測定とその改善のための具体的方策<br>・　英語科における年間を通した少人数指導の効果測定とその改善のための具体的方策<br>イ　国語，社会，理科，保体では，単元によって課題別学習，または補充的な学習と発展的な学習を取り入れた授業の実施，及びその効果測定と改善のための具体的方策<br>ウ　音楽，美術，技家における補充的な学習と発展的な学習を取り入れ　た授業の効果測定，及びその改善のための具体的方策<br>エ　効果的な学力補充対策の具体的方策<br>・　定期テスト前の補講<br>・　長期休業中補充学習のためのサマースクール，ウインタースクールの開講<br>②　生徒からの視点<br>ア　集団基準準拠検査（ＮＲＴ）結果による学力実態の把握と２学期に向けた授業改善のための手立ての検討<br>イ　各学期ごとの評定結果に基づく評価基準妥当性の検討<br>ウ　生徒による授業アンケート（理解度，満足度，要望）に基づく授業改善のための具体的方策<br>エ　目標基準準拠検査（ＣＲＴ）結果による学力実態の把握と，次年度に向けた授業改善のための手立ての検討<br>③　保護者からの視点<br>ア　アシスタントティーチャーによる授業参加の実現<br>イ　学力向上フロンティア発表会（H16.11.13）における全クラス，全教科，全職員の授業公開，及び「生徒・保護者と授業を語る会」の実施<br>ウ　保護者の学校診断アンケートによる授業評価<br>（２）「接続」の視点から，学区内小学校（上所小，女池小）との連携推進に努める。<br>ア　学区内小学校との学力実態分析，評価方法，少人数指導についての検討<br>イ　２学期制に向けた準備と取組<br>○研究方法<br>（１）全職員による研究授業の実施<br>①　第 1 期を 6 月～ 7 月，第 2 期を 9 月～ 10 月上旬とし，全教科，全職員が授業研究を行う。<br>②　研究授業後に協議会を設け，外部講師の方から指導・助言を受ける。<br>③　保護者の授業及び協議会への参観を要請し，さらに，授業アンケートを実施する。<br>（２）学力向上フロンティア発表会（H16.11.13)の実施<br>①　全クラス，全教科，全職員の授業公開<br>（会場：新潟市立鳥屋野中学校）<br>②　教師，保護者，生徒による「生徒・保護者と授業を語る会」の実施<br>（３）　授業参観後の各学級懇談会における授業に関する意見交換の実施。<br>授業参観の授業について意見交換の場を持ち，そこでの感想や意見を授業者に報告する。<br>（４）全教科単元ごとによる観点別評価の実施と保護者への通知<br>平成 16 年度中に，単元末テスト及び単元ごとによる観点別評価の実 |

| | |
|---|---|
| | 施と保護者への通知の準備を行う。（平成 17 年度から完全実施） |

(3)　研究推進体制

研究委員会により推進
平成 15 年度　研究委員会
メンバー

| | | | |
|---|---|---|---|
| 研究主任 | 白石誠史郎 | 教務主任 | 石津　博之 |
| 学習指導部長 | 中村　雅芳 | 総合的な学習主任 | 栗林　操 |
| 特活指導部長 | 小林　英男 | 数学科主任 | 祝　修 |
| 英語科主任 | 由野　和美 | 研究委員 | 本多　豊 |

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

（１）学力向上フロンティア中間発表会

①　参加人数　　実施日：平成 15 年 11 月 8 日（土）

| 鳥屋野中学校保護者 | 小学校保護者 | 教育関係者 | 計 |
|---|---|---|---|
| １６４人 | ８人 | １０６人 | ２７８人 |

②　公開授業についてのアンケート結果（保護者，教育関係者）

ア　たいへんよい　イ　だいたいよい
ウ　あまりよくない　エ　よくない

| | 保護者（%） | | | | 教育関係者（%） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ア | イ | ウ | エ | ア | イ | ウ | エ |
| (1) 生徒は真剣に取り組んでいたか。 | ２４ | ７１ | ５ | ０ | ４０ | ５５ | ５ | ０ |
| (2) 生徒は自分の進度に合わせて取り組んでいたか。 | ２６ | ６６ | ８ | ０ | ４５ | ５５ | ０ | ０ |
| (3) 教師の指示や説明は分かりやすかったか。 | ３１ | ５７ | ９ | ３ | ２５ | ５０ | ２５ | ０ |
| (4) 教師は一人一人に行き届いた指導をしていたか。 | ２５ | ６０ | １２ | ３ | ２５ | ７０ | ５ | ０ |

③　鳥屋野中学校職員のアンケート結果

ア　行うことができた　イ　だいたい行うことができた
ウ　あまり行うことができなかった　エ　行うことができなかった

| | 鳥屋野中職員（%） | | | |
|---|---|---|---|---|
| | ア | イ | ウ | エ |
| 子ども一人一人にきめ細かな指導を行うことができたか。 | 4.5 | ７３ | １８ | 4.5 |

④　保護者アンケートの記述（抜粋）

ア　授業について

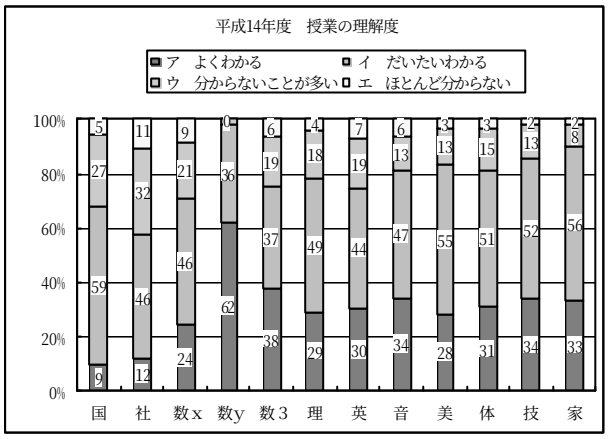
・　はしょってですが，いくつかの授業を見ました。クラス全体で進めていくのではなく，今は個々に別れ，個々のペースで進められていました。できる子はよいのですが，もっと先生が興味を引き出してぐいぐい引っ張る，方向性を示す，意見を出し合う，論議する授業も望みたいです。
・　３クラスを少しずつ参観させていただきましたが，先生によっては分かりやすい場合と，何をやっているのか分かりづらい授業がありました。

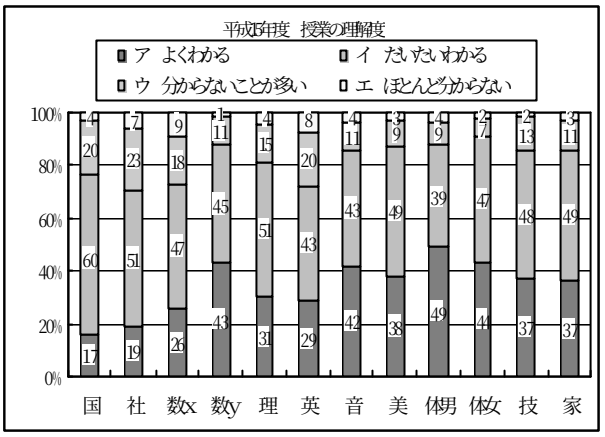
イ　「保護者と授業を語る会について」

「保護者と授業を語る会」では，多くの方の意見が聞けてよかったと思います。
国語が苦手な子ども（自分の意見が言えない，文章を読み取れない）も多いということを感じましたので，いかに「好き」になってもらえるか・・・。子どもが興味を持って引き込まれていくような授業であってほしいと痛切に感じました。
「密室」になりがちな授業を公開し，その授業を第三者の目から見た意見を出し合うことは，とても大切なことだと思いました。

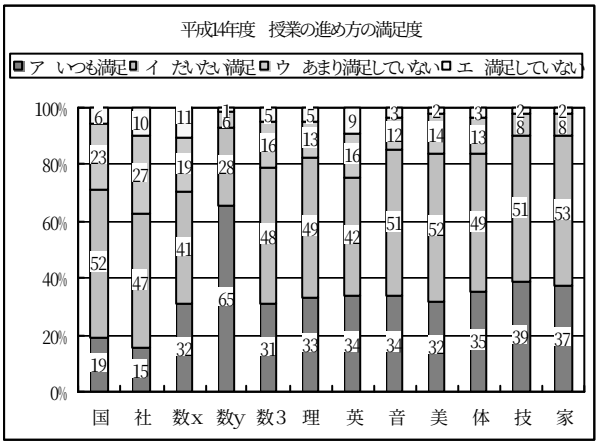
（２）生徒による授業評価アンケート結果（平成14年11月，平成15年11月に実施）

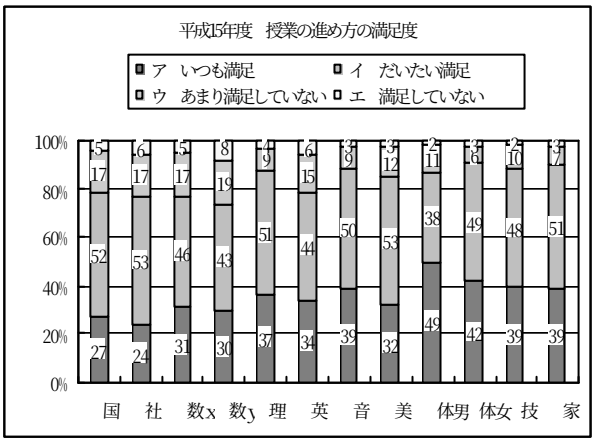
① 授業の理解



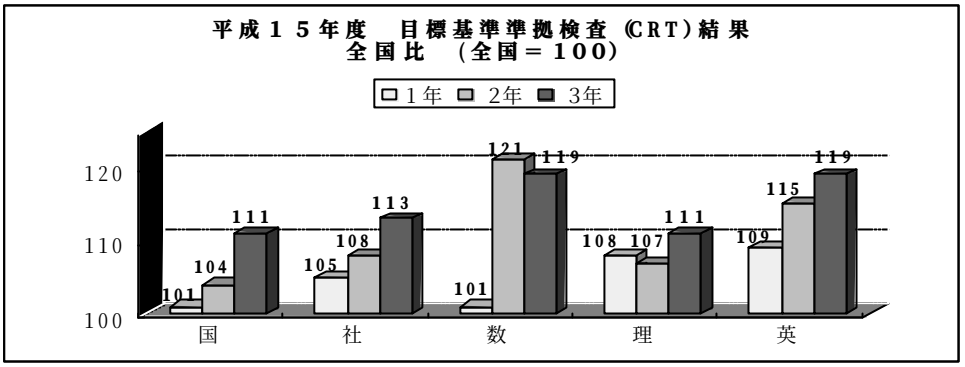

② 授業の進め方の満足度




平成 14 年度と平成 15 年度を比較すると，ほとんどの教科で「授業の理解度」及び「授業の進め方の満足度」の数値が上がっている。しかし，その中で，少人数習熟度別授業を実施している数学科では，特に学力が高位の生徒（数ｙ）で理解度・満足度ともに数値が下がっている。これは，少人数習熟度別を実施した当初は，その授業形態で満足していた生徒も，慣れてくるにしたがって，さらに授業に対する要求が高まり，理解度が低くなったり満足しなくなったりしていることがうかがえる。

（３）目標基準準拠検査（CRT）の結果　（平成15年12月に実施）




全ての教科で，全国比 100 を越えている。その中でも，特に少人数や習熟度別授業を実施している数学，英語の２，３年生の基礎的・基本的事項の定着度が大変高い。

しかし,全ての教科で１年生の基礎的・基本的事項の定着度が最も低くなっている。

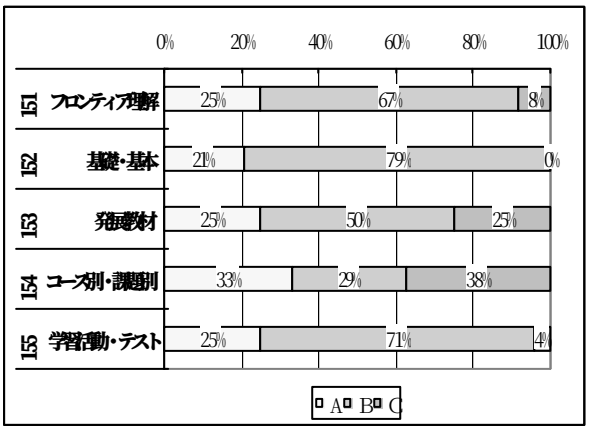
（４）学校運営評価の結果（平成 15 年 7 月，11 月に実施）

今年度，職員対象に２回実施した学校運営評価では，以下のような結果が出た。

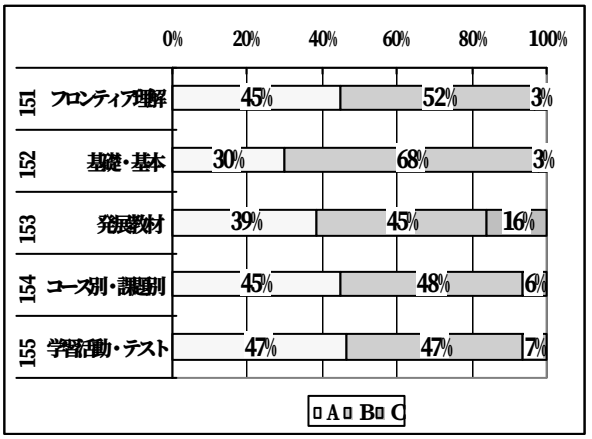
A ――― 十分取組んでいる　　B ――― まずまず取組んでいる
C ――― あまり取組んでいない　　D ――― 全く取組んでいない

（%）

| NO | 項　　目 | 実施期 | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 151 | 授業改善に向けてのフロンティアスクールの取組について理解していますか。 | H15.7 | 25 | 67 | 8 | 0 |
| | | H15.11 | 45 | 52 | 3 | 0 |
| 152 | 基礎的事項・基本的事項の定着に向けた授業を行っていますか。 | H15.7 | 21 | 79 | 0 | 0 |
| | | H15.11 | 30 | 68 | 3 | 0 |
| 153 | 発展教材を取り入れた授業を行っていますか。 | H15.7 | 25 | 50 | 25 | 0 |
| | | H15.11 | 39 | 45 | 16 | 0 |
| 154 | コース別学習や課題別学習を実施していますか。 | H15.7 | 33 | 29 | 38 | 0 |
| | | H15.11 | 45 | 48 | 6 | 0 |
| 155 | 基礎基本の学力の定着，発展的学力の獲得の視点から学習活動やテスト問題を考えていますか。 | H15.7 | 25 | 71 | 4 | 0 |
| | | H15.11 | 47 | 47 | 7 | 0 |




▲　学校運営評価　（H15.7 実施）




▲　学校運営評価　（H15.11　実施）

## ２．今後の課題

・　学級を解体して習熟度別，課題別のクラスを再編成して授業を行っても，少人数でなければ，クラスを分ける負担ばかりが大きく学力向上への効果は少ない。
・　習熟度別クラス編成にした場合，学力が下位のクラスの人数が多すぎて生徒への個別指導が困難。学力が下位のクラスの人数は，できる限り少人数が望ましい。
・　特別教室を使う教科，例えば，理科などは，複数学級を解体して課題別にクラスを再編成して授業を行った場合，同じ時間帯に理科の授業が重なり，実験場所，実験器具の確保が困難になる。
・　音楽，美術，保健体育，技術･家庭については，全体的に授業の理解度や進め方の満足度は，他の５教科と比較すると高い。しかし，「楽しそうにやってはいるが学力は向上していない」「活動はしているが，学習はしていない」という指摘もあり，必ずしも，生徒の理解度と満足度のアンケート結果が学力向上に直結すると考えるのは危険である。実技教科の場合，ＮＲＴやＣＲＴ等の学力向上の成果を客観的に見取れるデータがない。そのため，学力が向上したかどうかを判断するために，各教科ごとで独自に学力を数値化し，成果や課題を明確にしていく必要がある。
・　当然，一人一人の教師によって，指示や説明，発問の仕方，課題のもたせ方，意見の取り上げ方など，授業の進め方に違いがある。そのため，全く同じ手立てを用いて授業を行っても，結果的には，教師の指導力によって，分りやすい，分りにくいということが決まってくる。やはり，学力向上には，教師の指導力の向上が不可欠である。
・　学ぶ意欲や学習習慣の育成は，家庭や地域の在り方に大きく関わっている。そのため，学力向上について保護者と一緒になって考え実践していこうと，情報開示（学力実態や授業改善策），授業研究の公開，保護者による学校評価等に取組んできた。しかし，学力向上の取組に向けて保護者の意識を高めていくことはなかなか難しい。

## Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

○全国集団基準準拠検査（NRT）　年１回　４月実施
　１学年　　国語　社会　数学　理科
　２・３学年　国語　社会　数学　理科　英語

○全国目標基準準拠検査（CRT）　年１回　１２月実施
　１学年　　国語　社会　数学　理科　英語
　２・３学年　国語　社会　数学　理科　英語

## Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

１　発表会の実施
(1) 平成 15 年度　中間発表会
　日時　　平成 15 年 11 月 8 日（土）
　場所　　鳥屋野中学校
　テーマ　「確かな学力」と「学ぶ喜び」を保障する授業実践
　内容　　全クラス・全教科・全職員の授業公開
　　「保護者と授業を語る会」の実施
　　シンポジウム（教員，保護者，地域住民）
　対象　　保護者，地域教育関係者，教員

(2) 平成 16 年度　発表会
　日時　　平成 15 年 11 月 13 日（土）
　場所　　鳥屋野中学校
　テーマ　一人一人の生徒の実態に応じたきめ細かな指導を目指した授業実践
　内容　　全クラス・全教科・全職員の授業公開
　　「生徒・保護者と授業を語る会」の実施
　　シンポジウム（生徒，教員，保護者，地域住民）
　対象　　保護者，地域教育関係者，教員

２　ホームページにて公開　http://www.niigata-inet.or.jp/toyano/index.html
　①　研究内容
　②　授業研究会・中間発表会の発表内容，資料
　③　保護者，教育関係者のアンケート結果

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□　１５年度からの新規校　☑　１４年度からの継続校

【学校規模】　□　３学級以下　□　４～６学級
□　７～９学級　□　１０～１２学級
□　１３～１５学級　☑　１６学級以上

【指導体制】　☑　少人数指導　□　Ｔ．Ｔによる指導
☑　その他

【研究教科】　☑　国語　☑　社会　☑　数学　☑　理科
☑　外国語　☑　音楽　☑　美術　☑　技術・家庭
☑　保健体育　☑　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑　有　□　無